

高橋秀哉作 「孤独」

ナレーション “孤独”、仲間や味方のないこと。独りぼっち。

効果音 (終業のチャイム)

山田先生 よし、今日はここまでにする。それから昼休みにクラス委員会をするから、委員は必ず出席するように。

足立浩司 やっと昼休みか。午後の授業、だるいな。おい高橋、ふけないか？ いつもの茶店でヒマつぶそうぜ。

高橋次郎 だけどお前、委員会出なくていいのかよ。バレるとクラス委員と山田がうるせえぞ。

浩司 いいよ、あんなのシカトで。おれがこの前休んだ時、勝手に委員にしがたって。だから出る気なし！

藤田修 ちょっとお前たち、待てよ。

高橋 なんだ藤田、聞いてたのかよ。

藤田 「聞いてた」じゃないだろう？ 授業中の喫茶店は禁じられてるんだ。それにお前、クラス委員だろう。ちゃんと出席しろよ。それが義務なんだから。

浩司 だれが出来ますか。あんなつまらないものに顔出すくらいなら、独りでゴロゴロしてるほうがよっぽど楽しいねえ～。

高橋 おい、いつまで構ってんだよ。行くなら早く行こうぜ。よっ、クラス委員、人選間違えたようだね。

藤田 ちょっと待てよ！

ナレーション ここは、青春高校の2年C組。お聴きのように、高橋君と、学校を休んだ時にクラス委員にさせられたという足立君は、クラスきっての悪友で、この2人には、担任の山田先生を始め、同じクラス委員の藤田君も手を焼いていました。

効果音 (喫茶店内)

高橋 おい、B組の岩坂たちも来てるぜ。

岩坂茂樹 なんだ、お前たちも来たのかよ。おれたち、生研の先公が休みでよ、午後授業カットになったんだ。

浩司 へえー。それにしても、おれたちのクラスの連中ときたら、勉強ばかりしがたって。ムカつくぜ。

岩坂 その連中はよ、きっと勉強が友人じゃねえの？ ちょっとフツーじゃねえよな？ (一同笑い)

高橋 さて、そろそろ行くか。おい足立、お前持ちだぜ。お前が誘ったんだからな。

浩司 あ～あ。まあ、しゃあないな。

岩坂 おい、あいつ、高橋のクラスの山田じゃねえか。だけどなんであいつ、ここにいんだよ？

高橋 そう言えば藤田のやつ…。さてはチクリやがったな。よお、裏口のほうから出ようぜ。

岩坂 だけどよ、今、足立レジ行ってんだぜ。

高橋 バカ！ あんなのほっとけよ。全員見つかるのと3人で逃げるのとどっちが得か考えてみろよ。

ナレーション かわいそうな足立君。案の定、次の日――。

山田先生 おい、足立。学年会でお前の処分が決まった。

浩司 「お前の処分」って、おれだけなぜ処分を受けなきゃならないんすか？ ほかの3名はどうな  
ってんですか。高橋や岩坂や…。なぜおれだけ…？

山田先生 わたしが行った時、お前しかいなかったし、彼らはお前のことなんか「知らん」と言ってるじゃ  
ないか。とにかく1週間の停学だ。家にじっとしてろよ。

浩司 そんな一方的だ。おれの話も聞いてくれよ。え？ 先生、先生！

山田先生 うるさい。ダメと言ったらダメだ。

浩司(モノローグ)(エコー) チキショー、あいつら、自分のことだけしか考えないで。友達を売るようなマネしやが  
って！

ナレーション 彼は大きなショックを受けました。

効果音 (家の戸を開ける音)

浩司 ただいま。

浩司の伯父 浩司！ ちょっとこっちへ来なさい。

浩司 なんだ伯父さん、デカイ声出して。

効果音 (伯父の平手打ち)

浩司 何すんだよ、いきなり。ひどいじゃないか。

伯父 「ひどい」もクソもあるか。なんでぶたれたか考えてみろ。今学校から電話があった。人の顔  
に泥を塗るようなことなんかして。

浩司 おれだけ悪いんじゃないんだよ。一緒に行ったやつらが…。

伯父 (さえぎって)うるさい！ 親せきをたらい回しにされてるお前を引き取ったのは、どこのだれ  
なんだ？ 少しはありがたいと思ったことがあるのか？ 毎月十分金もやっているとこのに。  
なんでそういうつも問題を起こすんだ？ “恩をあだで返す”ということは、このことだ。

浩司 それじゃまるで伯父さんは、おれをイヤイヤ引き取ったみたいじゃないか。いくらなんでもあ  
んまりだぜ。引き取ったら金だけ与えりゃいいってのかよ！

伯父 生意気なこと言うな。お前なんか引き取らなきゃよかった。今すぐ出ていっても構わないぞ。

浩司 だれがこんな家にいるもんか。言われなくたって今すぐ出ていってやらあ！

音楽 (BGM)

ナレーション 彼は交通事故で両親を失ってから、この伯父さんに引き取られていたのです。しかし、物質  
的には不自由はなくても、彼の心は家庭的な愛情にいつも飢えていました。その満たされ  
ない思いを求めて、付き合っていた友人にも裏切られ、伯父には冷たくあしらわれ、彼の心  
は、今、寒々として孤独の中に沈み込んでいました。

浩司(モノローグ) チキショー。なぜおれだけいつもこうなんだ？ ほかの連中は友人だっているし、ちゃんとお  
父さんやお母さんだっている。なぜおれだけ、独りぼっちなんだ？ なぜだ?! 父さん、母さ  
ん、なぜおれを置いて死にしまったんだよ？ なぜなんだよ~?(エコー)

ナレーション 一方、彼がこんなに苦しんでいるのも知らず、高橋君たちは――。

岩坂 おい、足立のやつ、1週間停学になったらしいぜ。

高橋 構うことねえよ。ほっとけよ。出てきたらちょっと謝るときゃいいんだよ。

修 おい高橋、足立どうした？ 今日委員会なんだけどさ。

高橋 よく言うぜ。お前がやったくせによ。

修 なんだよ、それ？ なんのことだよ、おれがやったって？

高橋 お前がチクったんだろ？

修 おれがチクった？ バカなこと言うな！ ただあの日、山田先生が「どこに行ったか」って聞いたから、「いつもの所じゃないか」って。ただそれだけだよ。

高橋 そんなにアセるなよ。まあおれには関係ねえけどな。けどお前の一言で足立が停学になったのは事実だぜ。

ナレーション 「お前の一言で」。その言葉は、彼の胸に突き刺さりました。彼は自分の言葉で足立君がそんなことになってしまったかと思うと、胸がキリキリ痛みました。どうしたらいいのか、神様に祈りつつ悩んでいるうちに、1 週間がたちました。その日、足立君が一人残って、友達から借りた、休んだ分のノートを写していると――。

修 あれ、足立、まだ残ってたのか？ ちょうどいいや。実はお前に話しておきたいことがあるんだ。

浩司 話ってなんだ？

修 実は、山田先生がああ茶店 行ったのは、…おれが告げ口したからなんだよ。

浩司 なんだって?!

修 ごめん！ ほんとにすまなかった。だけど足立、お前を停学にしたいってやったわけじゃないんだ。

浩司 もういいよ。おれが停学で一番頭にきたのは、高橋のことだよ。さんざん今まで、友達面しときながら、自分たちが危なくなると、あのとおりだ。それに、おれが毎日どんな生活してるか、知ってるかい？

修 ……

浩司 両親を亡くしてから、ずっと伯父さんのところで、邪魔者扱いされているんだぜ。お前がうらやましいよ。家庭もあるし、友達もいるし。…でもこれからは、独りでやるんだ。もうだれも信用できない。どうせ人間は独りなんだからな。

修 それでお前は平気なのか？ ほんとに独りで平気なのか？ だれも味方してくれる人間や、仲間がいなくても、ほんとに平気か？ 実はな、足立。おれはクリスチャンなんだよ。毎週日曜日に、教会へ行ってるんだ。足立、お前もしよかったら、来てみないか？

浩司 教会だって？ なんだそれ？ 一体おれが、教会なんかに行って、何するんだよ？ お前のチクリでおれが失望してるから、その罪滅ぼしで、そんなことを言ってるんだろう。

修 違うよ！ もちろんおれは、ほんとにお前に悪いことしたと思って、神様に祈ってきたんだ。でも、おれが君に教会に来てほしいと思ったのは、今のお前の話を聞いたからなんだよ。実はおれ自身も、孤独に悩んで、中3の時、自殺まで図ったんだ。

浩司 え、お前が？

修 (小さな笑い)信用できないだろ？ でも、その時の苦しみの中で、おれは、イエス様を信じて本当に変えられたんだよ。イエス様は、「わたしは、世の終わりまで、いつもあなた方と共にいる」(マタイの福音書 28:20)とおっしゃってるんだ。足立、お前は決して独りじゃないんだぞ。

浩司 「世の終わりまで、あなた方と共にいる」か…。

音楽 (ブリッジ)

ナレーション 足立君は、その言葉を、何度も心の中にかみ締めていました。

<完>